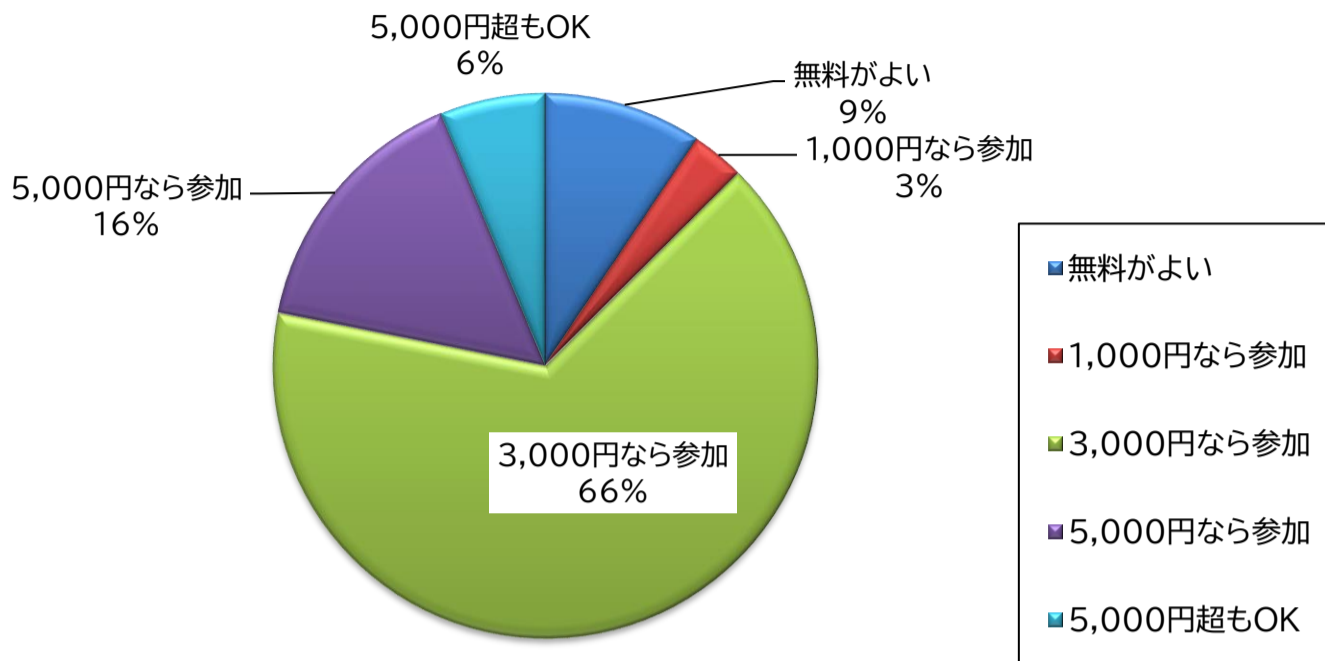


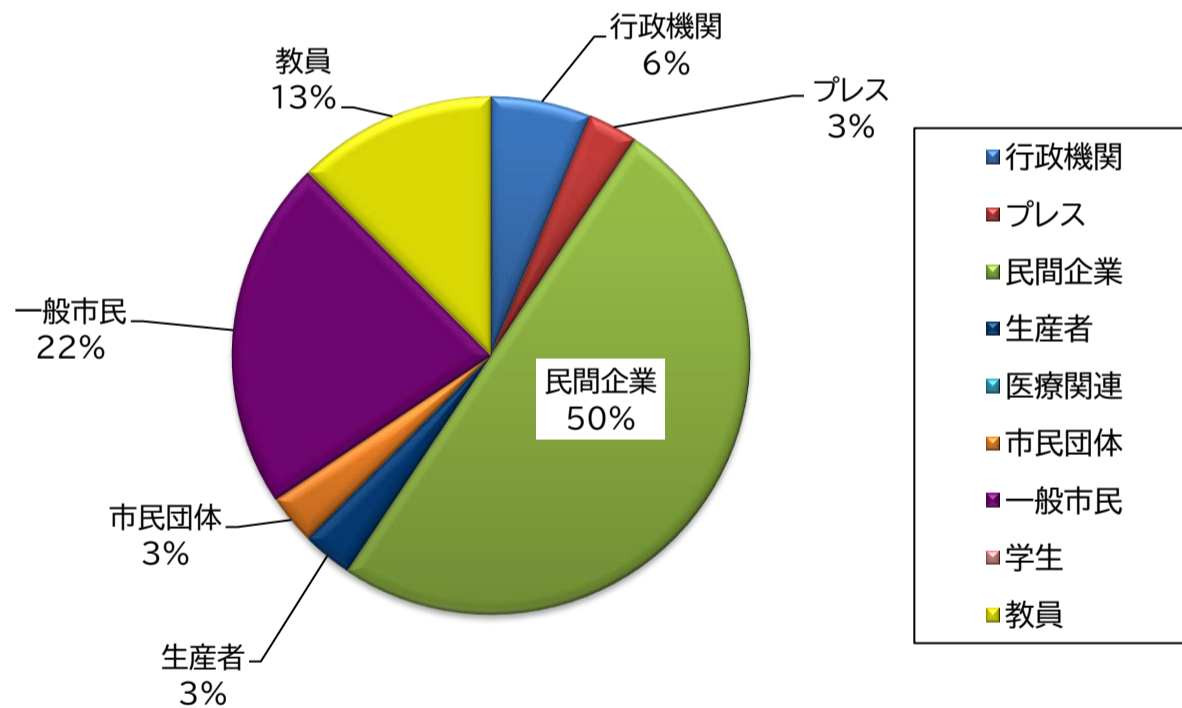
第2回テーマ:『残留農薬のリスコミのあり方』  
【開催日】2021年6月20日(日) 13:00~17:50  
【開催場所】オンライン開催(Zoom)

アンケート回収数32枚(参加者:83名、演者4名を除いた回収率:41%)

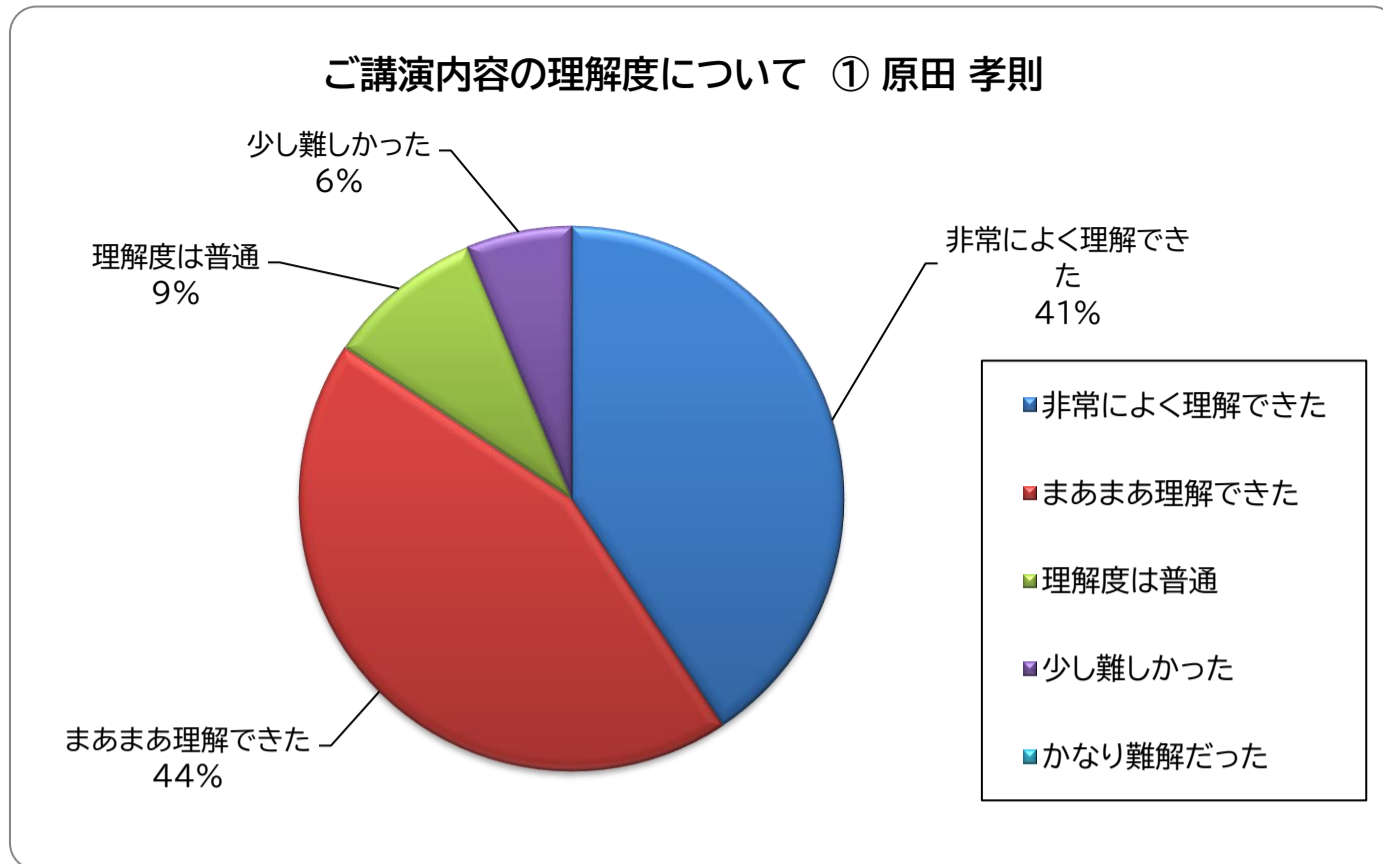
### 参加費(NPOへの賛助)について



### 参加者のご職業について

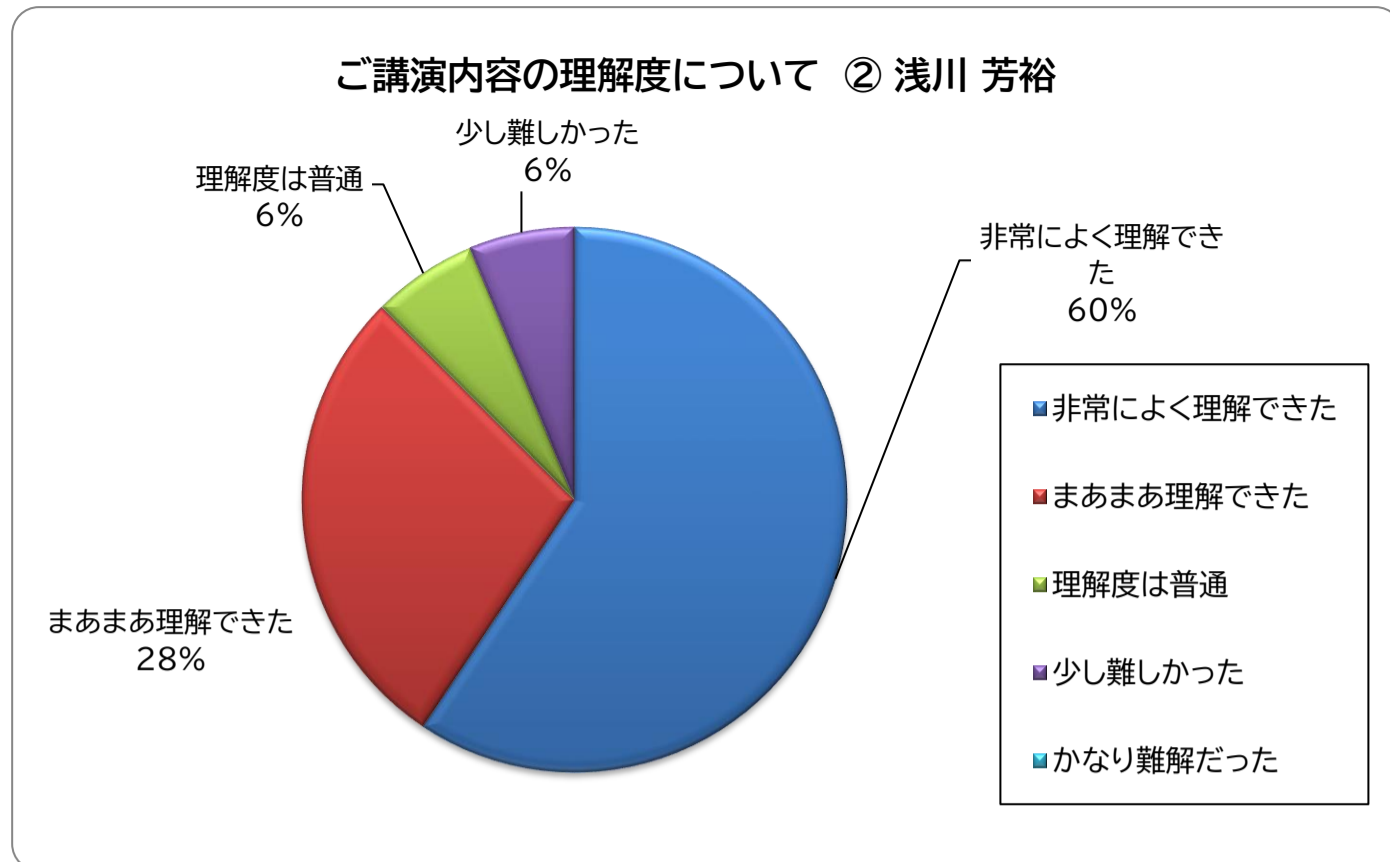


① 原田 孝則（一般財団法人残留農薬研究所 理事長）『グリホサートのリスク(発がん性)について』



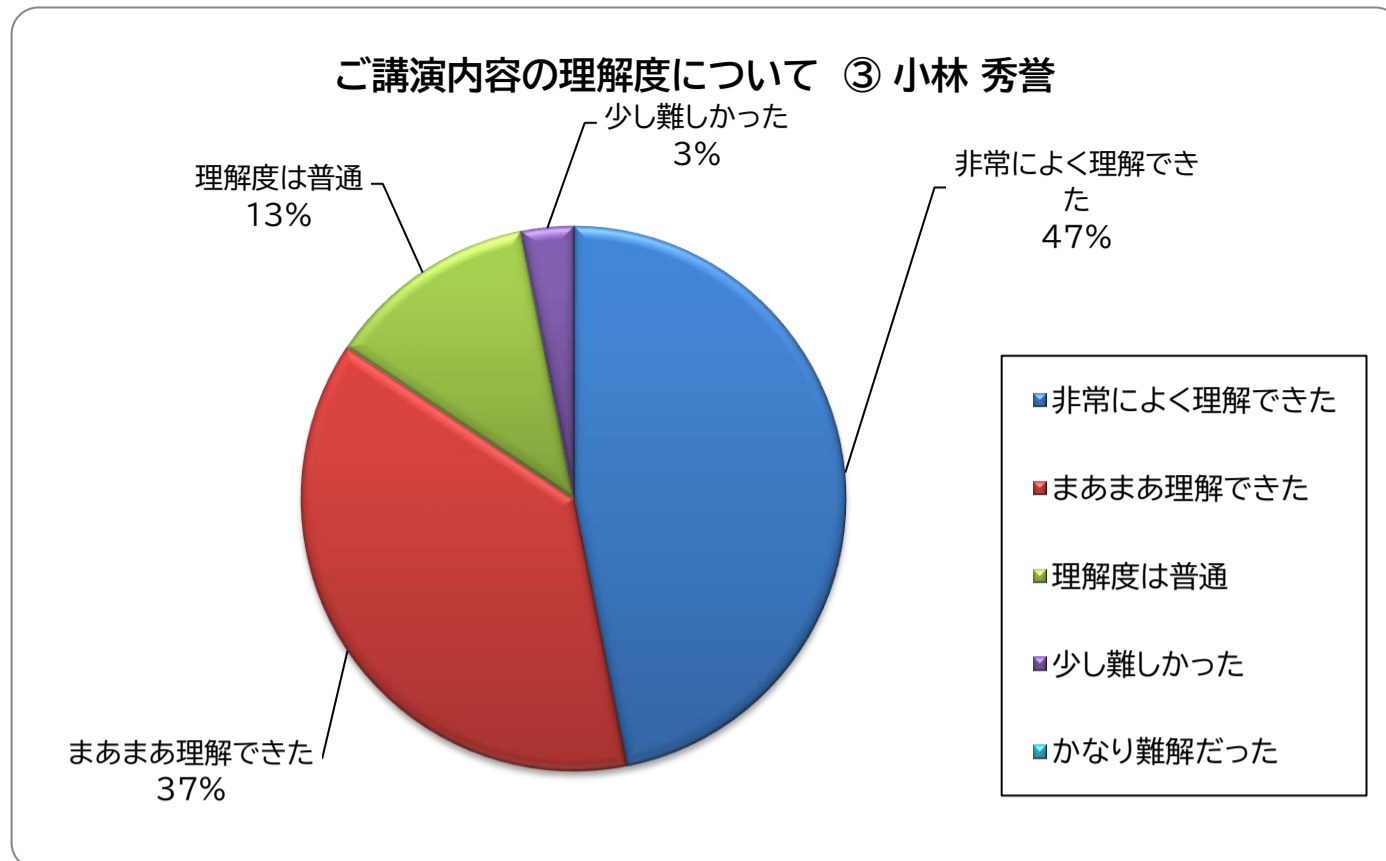
動物を用いた安全性評価試験がとても手間がかかるようになっている事に驚きました。
進めないで「普通」にしますが、私用で最後までしか拝聴できず大変残念でした。
質の高いリスク評価をされていることを理解できました。同時に、そのことへの先生のプライドも感じました。
有機農業はそれ以外の農業が主流だから成り立つ、とゆうのは残念ですが、有機食品の味わいは、濃厚で調味料も美味しく栄養価も高いように感じますが気のせいなのでしょうか。又日当たりの良い我が家の庭は、虫食いもありますが草刈りさえすれば力強く美味しい果物が育っています。
事前配布していただいたファイルの資料の右側のメモ記入欄はない方がよいです。
事の発端となったIARCの評価法に対して、化学性物質の発がん性評価法を詳しく説明され、世界の規制当局の評価と比較しながら、定量的、科学的根拠のないIARCの評価を明確にされた。
大変勉強させていただきました。ありがとうございました
遺伝毒性試験のメカニズム、遺伝毒性と発がん性が必ずしも一致しない理由、発がん性と判断する基準などをもう少し具体的に話してほしかった。
・リモンネがラットの雄に問題ということは、逆に動物試験では大丈夫でも人間に問題のある物質もいろいろあるのだと思いますが、どのくらい解明されているのでしょうか。・効果の優れた農薬が想定以上により多く使用されても、農作物に対する使用基準は変更されないのでしょうか。
グリホサートの安全性が確認出来た
健康影響評価の出し方など、実はきちんと聞いたことがなかったので、詳しく聴けて良かったです。
手順を追ったとても理解しやすいご講演でした。グリホサートへのIARC評価と規制当局との評価の違い、IARC評価に関する問題点のご説明は、次の浅川様につながる内容を理解するために改めて興味深いご講演で、大変勉強になりました。
初めて客観的かつ理論的なグリホサートの評価を学びました。世間に流布しているグリホサートの発ガン性疑惑が農薬全体の不安全神話を拡大しています、グリホサートの安全性評価を世間に知らしめることが必要と思います。

② 浅川 芳裕(農業技術通信社)『世界・日本の「反グリホサート運動」の真相』



相手と同じレベルで熱くならないと負ける、時には冷静さを抑え、勘定をむき出しにして闘うことも必要。とのお話しはとてもインパクトがありました。
なかなかショッキングでした
様々な人物が絡みあっていることに驚き、情報の広がりや仕組みに納得しました。IARCの存続については再考する必要を感じました。
オーガニック素材を用いてアレルギー対応の焼き菓子を作るわたしには大変興味深い内容でした。以前見た映画(タイトル忘却)で、GM食品をつくる土壌の害虫はどんどん耐性がついてしまう話と、その土壌はダメになってしまう、という映画を観て、問題だなあと強く思ったのですが、それも反GMビジネスなのでしょうか。信憑性はあったので、情報の取捨選択が難しいです…
日本の多くのマスコミを含めて、お金をもうけようと考えて行動されている方と真実を伝えようとして行動される方では社会への影響力が違います。講師の方のご努力はすばらしいです。
非常に興味深い話でした。まだまだじっくり聞いてみたかったです！
これまでの経過を時系列的に詳しく調査され、表と裏の話を加えながら、興味深く聴けた。IARCの存在・意義に疑問を持つと共に、そのような組織に日本政府が世界で最も多額の支援をしているのに驚いた。
規模の大小はあれ、リスクコミュニケーションの難しさの縮図のように感じました。
チャットでもご質問させていただきましたがやはりSNS等での根拠のない不安をあおるデマは農業だけに限らず様々なところであってこれをどう正しく理解してもらうかが大きな課題だなと感じています
考えさせられるところが多かった。農業のみならず化学品の製造メーカー全体が、機会があれば賠償金を取ってやろうと狙っている輩のターゲットになっているという見立ては言われてみればたいへんもっとも。たとえば自動車に欠陥があるかどうかを争う訴訟より、化学品的場合は毒性の判定の部分に経験に頼る感覚的？なところがあったり、因果関係が必ずしも明確でないところがあったり狙われやすいのだろう。そういう世界が厳として存在するのなら性善説に基づくコミュニケーションに限界があるということも確かにそのとおり。これまでそういうことに思いが至らず、わずかながらでもリスクコミュニケーションに関わってきたつもりになっていた自分のナイーブさを反省。
アメリカの訴訟ビジネスに嫌悪感を覚えた。日本でも過払い金やC型肝炎の給付金など今回の訴訟に本質が似ているように思った。IARCが相当あやしい機関であることも衝撃だった。
訴訟ビジネスの実際に寒気を感じてしまうが、これが実態なので警戒は必要だ。
なんとなく知っていたことが、もう少し深く戦略として練られているであろうことを知り、とても興味深かったです。
今までにない驚きのご講演内容でした。リスク以前の人間の姿を見せつけられた思いでした。見極める目線を養うための勉強を改めて感じました。
極めてインパクトのある講演でした。自然科学と社会科学の両面からのアプローチの必要性を実感しました。目からウロコが落ちました。
グリホサートは発がん性があり、ラウンドアップ社が裁判で負けたと聞いていたので、ホームセンターで販売されていて心配になりましたが、裁判ビジネスのせいだとは衝撃でした

③ 小林 秀誉(農林水産省 消費・安全局農産安全管理課農薬対策室 室長)『我が国の農薬登録制度について』



浅川先生もおっしゃっておられましたが、見直し制度が出来たことなど、安全性評価が日進月歩である事、それに伴い現場はどのような努力をしているかをアピールすることが、信頼を高めることになると思います。

CODEXに参加する立場は原則として個人だということはいかれましたが、そこに参画している国は先進国だけなのかどうか、参画又は批准?していない国がどのくらいあるのか気になりました。

→Codex委員会は、食品の規格を設定する政府間機関であり、政府代表として参加します。2022年2月3日現在、Codexのメンバーは188か国+EUであり、ほとんどの国が参加していることとなります。一方、Codexにおける議論の科学的な根拠となるリスク評価は、FAOとWHOが設置した専門家会合であるJMPR(残留農薬)やJECFA(食品添加物、汚染物質、動物用医薬品)、JEMRA(有害微生物)で行われますが、こちらには専門家が個人として参加します。これらの専門家会合の出席者は、レポートに記載されています。

例えば、昨年9月のJMPRに出席した専門家のリストは、以下にあります。

<https://www.fao.org/3/ca5796en/ca5796en.pdf>

ていねいなご説明は判り易かったです。

分かりやすく、よくまとめてお話しいただいたと思います。

透明性のある機関でたくさんの工程を踏み安全性を確保しているその認識が広がり、センセーショナルな陰謀めいた不安が抑えられると良いかと切望しています。むしろ規制が増えすぎてがんじがらめになっているのではないかと懸念します…

とてもわかりやすいご説明でしたが、詳しくない方のために用語の説明があるとよいのではないかと思います。

大変勉強させていただきました。ありがとうございました

個人的には、他の国のシステムとの違い、規制の国際調和などをもう少し解説してほしかった。

「残留基準0.1ppmのところ0.2ppm検出したので、回収。この野菜を1日100kg一生涯食べても健康に影響がありません。」などの社告を見ることがありますが、回収以外の対応はあり得ないのでしょうか。その野菜を利用した加工食品も回収しなければならないのでしょうか。諸外国でも同じような対応をしているのでしょうか。

農薬が危険なものというイメージを払拭できる情報なので、広く知って欲しい。

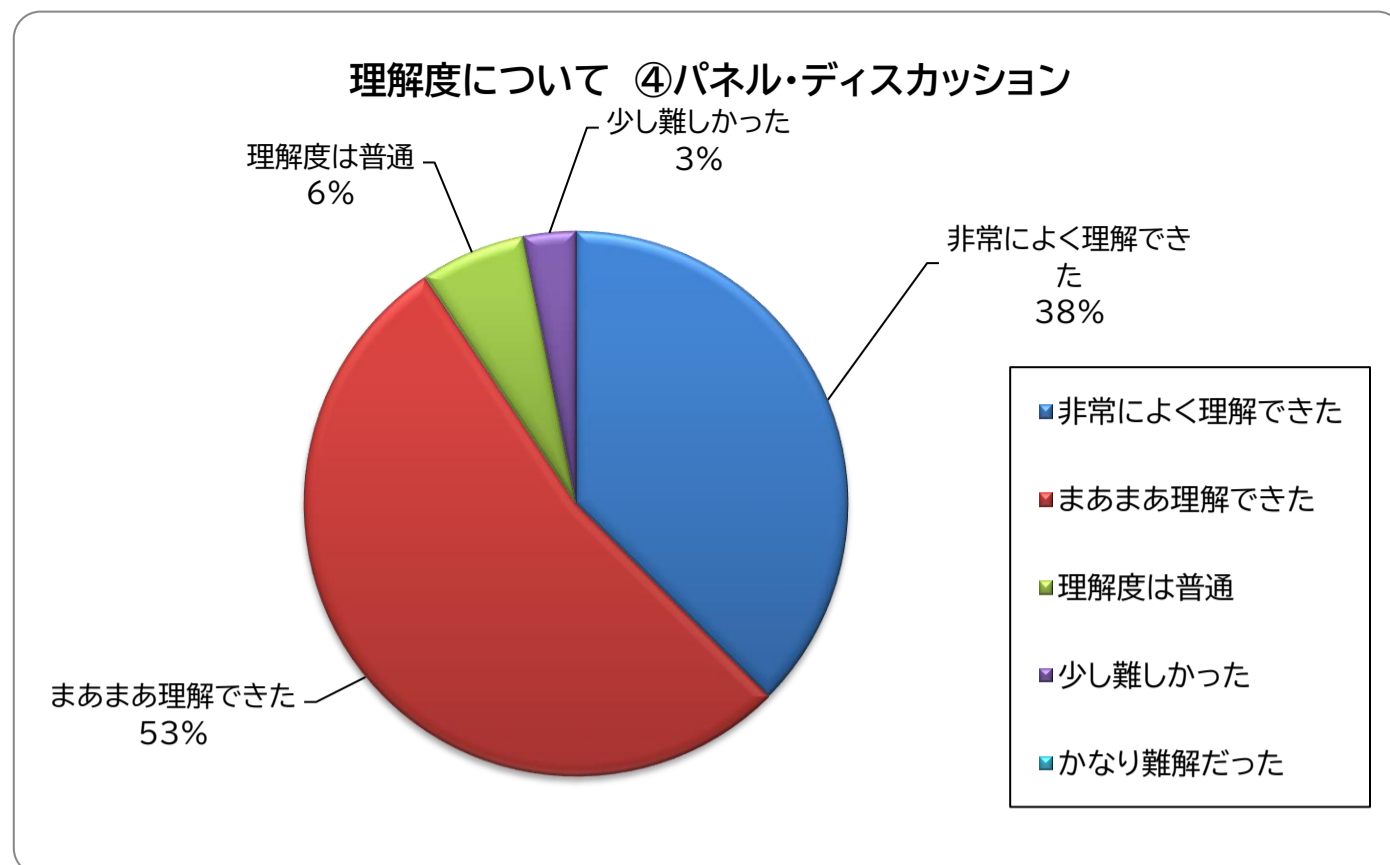
普段、残留基準の方に目を向けがちなのですが、その前の農薬使用の方を知る機会になり良かったです。

以前行政機関として野菜、果物等の残留農薬検査を行っていましたが、残留農薬レベルでの考え方はある程度承知しておりましたが、農薬として、そして農薬登録制度については中途半端なレベルの知識だったと思います。大変勉強になりました。

国による農薬管理の実態を知ることが出来ました、農産物の生産へ農薬が貢献している事を国民にもっと知らせるべきと思います。生産者のための農業施策・消費者へのアピールによる消費拡大の両面からの農水省が役割を演じてください。'国産だから安全'に頼ることなく国内・輸出両面で農業拡大を期待します。

農薬は体に悪いと今まで思っていたのですが、これだけ安全評価され管理されているので、安心しました。

④ パネル・ディスカッション(進行:SFSS山崎)『残留農薬のリスクのあり方』



IARCのトンデモ状態は本当に驚きでした。浅川先生の提言は何とかして現実としたいものだと感じました。
ごく少数の「微量な残留農薬に反応する人」が存在します。その人たちは自身の健康被害を避けるため、必要に迫られて「農薬の使用履歴が分かる農産物」を選択しています。やみくもに農薬を怖がる人がたくさんいることで、その事実への理解が妨げられていると感じています。「微量な残留農薬に反応する人」にとっては「判断材料となる農薬使用の履歴や農薬名」を必要な時に見ることができかどうか重要です。これはリスクコミュニケーションによって解決できることだと思います。残留農薬によって健康影響があると認識する人たちは化学物質過敏と言われることが多く、食物アレルギーの人の中にも存在しますが化学物質過敏イコール食物アレルギーではありません。今日の主題からは外れていることなのですが、「反農薬」との対峙がヒートアップされていたので、思わず挙手してしまいました。オーガニック界でも基準や手法の違いがあるようで、それ自体を良いとも悪いとも評価できないのですが、「判断材料となる農薬使用の履歴や農薬名」はこちらから求めれば開示されることが多く、リスクコミュニケーションの手法が積みあがってきているように感じます。「反農薬」はナンセンスですが、リスクコミュニケーションにおいては評価すべき点があるかもしれません。
立場が違う方々が共通の認識で考えられるという良い舞台だと思いました。
様々なお考えの方参加される方からのご質問におこたえしてコミュニケーションをするのは難しいです。
すみません。パネルディスカッションは参加しておりません。チェックを外せませんでした。
大変色々勉強させていただきました ありがとうございます
農薬のベネフィットをどう伝えるか、という論点が示されたのに、議論がなかったのが少々残念。
ネオニコチノイドがみつばちに悪影響を与えるのは、いい悪いは別としてそもそも殺虫剤だからという当たり前のことだった。
反対意見がないので、確認だけになってしまう
色々な国や団体が、色々な思惑を持って活動していく中で、安全であるという何のインパクトもないことを伝えていくのは難しいのだと再認識しました。
農薬について、その評価がサイエンスではなく感情論になっていること、透明性が高いGLP試験と学术论文の査読システムなどその他かなり突っ込んだ興味深いパネル・ディスカッションでした。
学者・農業ジャーナリスト・行政を交えたパネル・ディスカッション大変良い組み合わせでした

⑤ 今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください

グリホサートの訴訟につきよく理解できました。
抗生物質やワクチンが我々の健康維持に役立ったことは知られています。農薬がどれほど食生活の向上に役立ったかをもっとアピールすべきと思いました。
催奇形性や発がんは少し先の未来をやみくもに恐れるものですが、化学物質過敏やアレルギーはたった今の健康リスクを回避しようとするものです。催奇形性や発がんについては、沢山の研究者や国の施策、国際連携によって安全の枠組みが形成されていることが本日のご講演でよく理解できました。ありがとうございます。
アメリカの訴訟ビジネスの結果だけが日本に伝わるのは危険、リスク分析以前に、訴訟ビジネスの実態を知るあるいは知らしめる必要がありますね。
残留農薬のリスクについて、よく考える良い機会になりました。また、このような機会があればと思います。
大変興味深い内容でした。こうゆう事実を受け取りやすい形でメディアで取り扱われると良いかと切望します
世界に必要な食糧の量と価格について、お金をもうけようとする方々と国連のSDGsのゴールの目標について、あらためて考えさせられました。
真実とは何か、またそのことをどうやって確かめたいのかという点については、本当に考えさせられました。ですが、そのためにもいろいろな話を聞いて、一番矛盾がない情報を真実とするしかないのかもしれないかもしれませんね。
今回のようなフォーラムによって、一般の生活者が化学物質の安全性、とくに摂取量との関係を理解し、食品への安心感が増す事を期待したい。
浅川氏の講演とコメントがたいへん参考になった。上にも書いたように、これまでいかによく理解してもらうかを心がけてコミュニケーションの向上を図ろうとしてきたが、悪意がある場合、少なくとも自分はとても無力であることを認識した。
パネルディスカッションの中でもありましたが、赤城先生のように消費者の声をもとに議論するというようなことがあった方が、より議論が活発になるのではと感じました。有識者肯定派・否定派、消費者の肯定派・否定派がいると、煩雑になるリスクはありますが、両論議論したうえで、ウェビナーはどう見ると、より深い視点で視聴出来るのではと感じましたので、ご検討いただけますと幸いです。
非科学的な発信に対抗するためにも、強い発信力が必要であることが良く分かりました。どうもありがとうございました。

ネイチャーやサイエンスなどの権威ある科学誌も結局は経済性抜きでは成立しない。今後、権威なき科学誌は生き残ることができないのではないかと思った。グリホサート訴訟によって、仮にGM作物が作れなくなった損失が発生したら、この訴訟で利益を得たものに対して逆訴訟を起こしてぎゃふんと言わせたいところです。

何を信じたら良いのか、全くわからなくなりました。

市井の方々が漠然と不安に感じている農薬・残留農薬へのリスクについて、今回のような機会を広めていくことの工夫を痛感します。しかし工夫への答えが見いだせなく…

自分を含めて皆さんもまだまだ農薬については洗えば落ちる食の安全と除去できない自然界への影響とが悩ましい問題ととらえているような気がします。

## ⑥ 今後、食の安全・安心・リスクに係る分野で、どのようなテーマのフォーラムを希望されますか？

ゲノム編集作物

オーガニックに負の側面があるなら、そのメリットとデメリットが知りたいです 美味しいなどは思うので 又SDGSの暴走が怖いので…

日本の食品衛生法の大腸菌群陰性の基準の検査方法と海外の検査方法との違いによる輸入食品の輸入不許可の現状と課題。

学校給食における食品添加物の使用について

輸入農産品・輸入加工食品の安全性(原産地管理体制・輸出入時の検査基準及び体制) についてのフォーラム

## ⑦ 残留農薬に関するリスクコミュニケーションのあり方について、どうあるべきでしょうか？ご意見をお書きください

「判断材料となる農薬使用の履歴や農薬名」を必要な時に見ることができる。使用の履歴とは、例えば収穫の何日前に農薬が散布されたか、

悪質なデマを放置しないこと

中等教育では農薬の言葉自体がタブーです。研究者も高次現象を扱うとの主張のためか農薬の言葉を避けます。20年ほど前高校化学の教科書を探索し、化学の工学と農学への応用が対比されていました:工学では新機能素材や公害対策でしたが、農学では農薬に一切触れず何と「肥料」でリービッチの最少律が紹介されていました。農薬が質的に進歩し現代社会がそれに大きく依存しているのに教育でそれを評価しないのは不正義だと思います。

農薬の必要性、残留農薬の安全性を理解されるようなリスクをすべきだと思います。

スーパーの野菜コーナーなどにA4サイズくらいで要点のみわかりやすく示されたものがあると良いのかなあ。主婦の目にとまりやすい何か…

お金をもうけようとする方々の行動を止めることはとても難しいことで、その宣伝を信じて行動されている方とのコミュニケーションはさらに難しいと考えていますが、伝えたいことは継続した伝えなければならないと考えています。

農薬の場合、ヒトへの影響と環境(ミツバチなど有益動物含む)への影響を分けて議論することが重要と思う。また浅川氏が開発や安全性研究に関わる「人」を前面に出して、その苦勞を共感させるのがコミュニケーションに有効ではないかという趣旨のコメントがあり、賛意を覚えた。同様の意見は、島根大学の巢山氏が農薬学会のリスクに関する講演でしばしば述べておられる。こちらのフォーラムでも話を聞いてみて下さい。

大学生は話せば分かる人がほとんどです。中学校、高校で正しい知識を伝えることができるかどうか、そのあたりがキーのように思います。

浅川さんの話をもっと多くの人に分かりやすく広めて(やはりTVでしょうか)、農薬やGMに対する悪いイメージを払拭してもらいたいと思います。浅川さんが反農薬、反GMの方々から攻撃されるリスクが大きいので難しいのでしょうか。

農薬の環境破壊は過去のものであると、どう説明していくか

危険であるということは心に響きやすく、また曖昧な形でも心に残りやすいなかで、安全について伝えるのは難しく、簡単に再び危険側に戻ってしまうのだろうなと思いました。どうあるべきか、どうしたらよいのか、自分が正しいと考えたことも正しいかわからない中で人に勧めるのも間違っているようにも思えてきて、正直難しいです。

リスク管理に不安をもち、リスク評価に疑いをもつとするとリスクコミュニケーションが成り立たないように思います。リスク管理機関とリスク評価機関への偏見を取り除けることからのリスクのあり方はあり得るでしょうか。

消費者は輸入農産品のポストハーベスト残留農薬を心配して無農薬でなくても国産農産品に安心をする傾向がある。農産品の安定供給および美味しさに農薬が貢献している事と併せて 解かりやすくADIを説明するリスクコミュニケーションを行政・メディア・教育機関・流通が連携して展開する。

## ⑧ 今回のオンライン・フォーラムについて、ご要望や改善すべき点がありましたら、ご意見をお書きください

開催ありがとうございました。

ズームの方が通信が安定しているように思いました。

オンラインの運用が回を重ねる毎に良くなっており違和感がありません。

## ⑨ SFSS事務局へのご要望

いつもありがとうございます。

細かく質問させていただき、貴重な機会でした。有難うございました。

山崎様にはとても親切にいただき感動しております。ありがとうございます。

次回の開催について、お願いがありますが、長くなりますので、控えさせていただきます。